

Q. 棟落ち(母屋下がり)で高さを入力した耐力壁は、出力のどの部分で確認できますか？

【質疑内容】

棟落ち(母屋下がり)で高さを入力した耐力壁について、その内容は出力のどの部分で確認できますか？

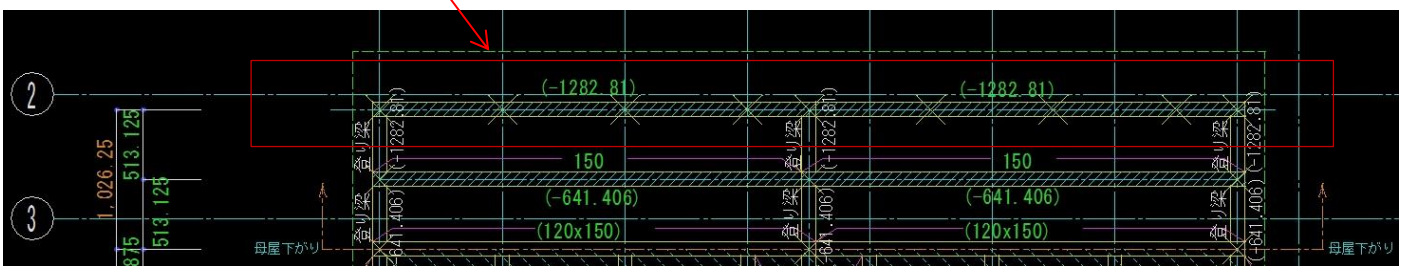
【 回答 】

計算書の出力 (2.5.2) で確認できます。

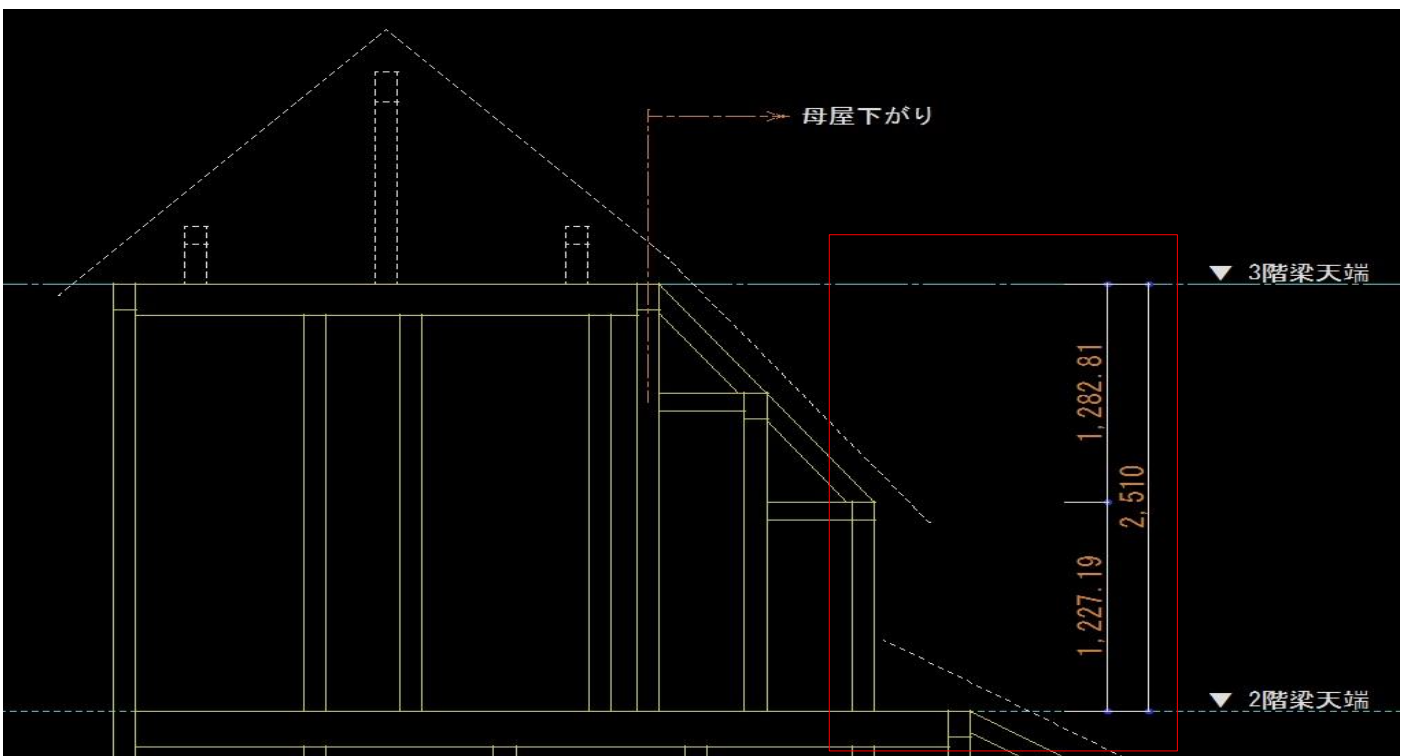
例をあげて説明します。

<参考例物件>

- 木造3階建て 計算方針は [令第46条1項] [令第46条2項] [青本]
- 2階梁天端~3階梁天端の垂直間距離(高さ)=2,510mm
- 3階部分に-1282.81mmの棟落ち(母屋下がり)あり



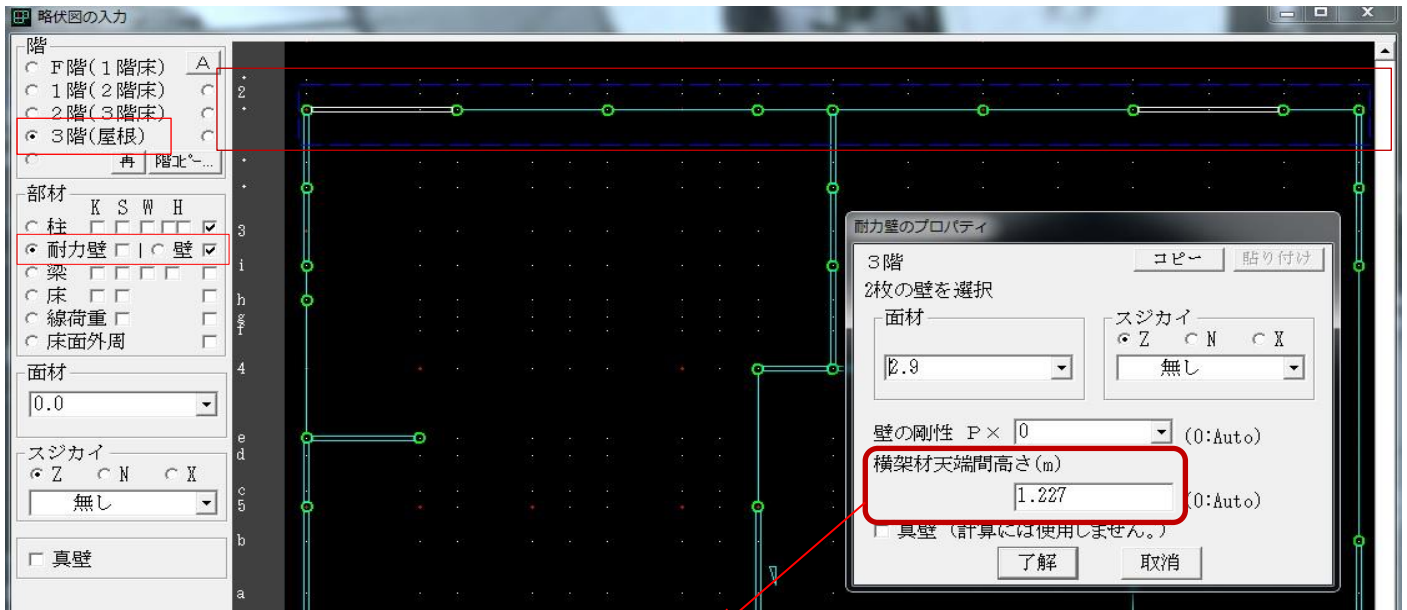
▲参考構造図(小屋梁伏図)



▲参考構造図(軸組図)

このような母屋下がり部の耐力壁（棟落ちしたために高さが低くなってしまいう耐力壁）については、KIZUKURI の略伏図の入力で【耐力壁のプロパティ】→【横架材天端間高さ (m)】の欄に数値を入力します。

(※ただし計算方針が[青本]の場合は、計算方法が異なるので、入力の仕方下記とは異なります。)



【2階梁天～3階梁天の垂直間距離】2.51m－【母屋下がり寸法】1.28281m＝【母屋下がり部の横架材天端間高さ】1.22719m（小数点4ケタ以降は四捨五入されます）

母屋下がりなどのない通常の耐力壁については、この欄は0のままで特に何も入力する必要はありません。

ここで入力した内容は、出力した計算書の（2.5.2 許容耐力と剛性）で確認することが出来ます。

2.5.2. 許容耐力と剛性

通り	符号	壁倍率 α_i	壁長さ l_i 壁高さ H_i (m)	剛性 $P \times$	剛性 K_a (kN/m) K_a'	低減係数 C	通り剛性 D_i (kN/m)	耐力 P_a (kN)	通り耐力 ΣP_a (kN)
6	り - A	2.9	0.682 2.510	150	231.578 231.578	1.000	1157.889	3.875	19.375
	ほ - に	2.9	0.909 2.510	150	308.770 308.770	1.000		5.167	
	に - H	2.9	0.455 2.510	150	154.385 154.385	1.000		2.583	
	H - I	2.9	0.909 2.510	150	308.770 308.770	1.000		5.167	
	I - ろ	2.9	0.455 2.510	150	154.385 154.385	1.000		2.583	
e	り - A	5.2	0.682 2.510	150	415.243 298.627	0.719	298.627	4.997	4.997
4	へ - F	2.6	0.455 2.510	150	138.414 116.696	0.843	233.392	1.953	3.905
	F - ほ	2.6	0.455 2.510	150	138.414 116.696	0.843		1.953	
l	り - ち	2.9	0.909 1.227	150	631.633 330.898	0.524	803.462	2.707	6.572
	H - I	2.9	0.909 1.227	150	631.633 472.564	0.748		3.866	
計							2493.369		34.850